

教育活動は、「相互交渉」をし続けるところに本質が…

専門学校の教壇に立つ、あるメル友から次のようなメール。

【 本人たちは、全く悪意の無い行為のようですが、他人への迷惑・共有部分の私有化については、ほとんど意識が向かないようです。

どのように話せば、伝わるのか・・・。

教育とは、興味深く、また、常に悩むものなのだと、日々痛感しております。 】

つい、いつものように厚かましく、次のように返信した。

【 「みなさん！」と呼びかけ的に話すと、学生は他人事として聞くとか。一人一人に問いかけるように話すことが大事なよう。学生は、自分自身を主役として語りかけてくれることを望んでいるようです。

学生、一人一人の土俵に上がって語りかけるしかありません。学生の一人一人の言動に絡めて、こちらの云いたい、伝えたいことを話し続けるしかありません。

教育活動とは、一人一人との「相互交渉（係わり合い）」をし続けるところに本質があるように思います。

「交渉」ですから、教育活動とは「一方通行」でなく、「双方向性にあり」ということ！マスのプロ的な教育環境では、一人一人への教育は難しいです。

ですから、大学ではゼミが大事なのです。ゼミは小人数で、相互交渉可能ですものね。

自分は、授業は専門職の入り口まで導くだけかなと思っています。その入り口にたどりついた学生で、専門職という中に入ろうとする前向きな学生と一人一人係わり合い（相互交渉）が始まってこそ、専門職の教育が行えるものと思っています。

自分は、各学校の学生に、最後の授業で話しています。

「半期の週一回の非常勤の身で、しかも他人数の授業では授業というカタチで係わったが、一人一人と係わり合い（相互交渉）はできなかった。その分、これからは、メール等でいくらでも係わり合い続けますから、遠慮なく……。」と話しています。

各学校の非常勤の自分とは異なりあなたは常勤の身ですから、授業時間以外でも学生と係わり合う時間、状況は多いかもね。

そうした状況の一つ一つを大事に、一人一人の学生と相互交渉することで、思考する真のプロを育ててくださいね。 】

(2006年2月2日 記)